

令和5年度学校教育自己診断 結果について

1 変更点と回収率について

今年度より、実施方法を変更し、記入紙から Google Form での回答とした。また、幼児及び重複児童生徒への実施を保護者保証人回答にまとめた。そのため、母数が少なくなり、ひとりあたりの回答が率の変化に大きく影響を与えることになるが、実態に即した数値になっていると考える。回答率は次の通り

児童生徒	46.7%(昨年度 47.6%	-0.9%減)
保護者保証人	35.8%(昨年度 49.2%	-13.4%減)
教職員	88.6%(昨年度 90.7%	-2.1%減)

2 児童生徒

(1) 学校について

- ① 学校に行くのを楽しみにしている。
肯定 92 (79) 前年比 13 否定 8 (21)
- ② 先生は、わたしたちのことを大切にしてくれている。
肯定 92 (83) 前年比 9 否定 8 (17)
- ③ 学校のホームページやマチコミメールを見聞きしている。
肯定 54 (28) 前年比 否定 46 (72)

校長より どの項目の値も増加し、特にホームページの活用が大きく上昇しました。生徒の情報 (ICT) の活用が進んできたのではないかと考えます。

(2) 勉強について

- ① 授業はわかりやすい。
肯定 92 (82) 前年比 10 否定 8 (18)
- ② 授業を受けて、もっと勉強したいと思う。
肯定 85 (77) 前年比 8 否定 15 (23)

校長より 勉強についても増加がみられます。児童生徒が高いモチベーションをもって前向きに勉強に取り組んでいます。

(3) 先生について

- ① 先生は、話をよく聞いてくれる。
肯定 100 (75) 前年比 25 否定 0 (25)

大阪府立大阪北視覚支援学校

- ② こまったときに、気軽に相談できる先生がいる。
肯定 100 (85) 前年比 15 否定 0 (15)
- ③ 先生は、やさしいことばづかいで話をしてくれる。
肯定 100 (77) 前年比 23 否定 0 (23)
- ④ 先生は、わたしたちのことをよくわかってきている。
肯定 92 (74) 前年比 18 否定 8 (26)

校長より ここでもどの項目も大きく増加し、4項目中3項目で100%でした。教職員が日頃から児童生徒にやさしく、親身になって接している事が伺えます。

(4) 進路について

- ① 先生は、将来について考えさせてくれる。
肯定 83 (81) 前年比 2 否定 17 (19)
- ② 先生は、さまざまな進路情報を教えてくれる。
肯定 73 (62) 前年比 11 否定 27 (38)

校長より 学部が上がるほど進路に関する話が多くなっていきますが、今年度はキャリアプランニングマトリックスを活用した早期からのキャリア教育を進めています。

(5) 道徳・人権について

- ① 先生は、命の大切さや社会のルールについて教えてくれる。
肯定 92 (79) 前年比 13 否定 8 (21)
- ② 先生は、自分や友だちを大事にすることを教えてくれる。
肯定 83 (79) 前年比 4 否定 17 (21)
- ③ 先生は、緊急事態がおこった時、どうしたらよいかを教えてくれる。
肯定 92 (86) 前年比 6 否定 8 (14)
- ④ 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。
肯定 91 (82) 前年比 9 否定 9 (18)

校長より ここでもすべての項目が増加しました。人権については教職員に対しても人権研修を行うなど人権に対する意識付けの取組みを行っています。

(6) 行事について

- ① 文化祭、校外学習、宿泊行事、社会見学などは楽しい。
肯定 85 (75) 前年比 10 否定 15 (25)
- ② ほかの学校の人たちと交流している。
肯定 69 (65) 前年比 4 否定 31 (35)

校長より 新型コロナが5類に移行したことで、活動への制限が緩和されたため多くの行事を行うことができました。ただ、幼児児童生徒数の減少しているため行事が縮小された感は否めません。他校との交流は、各学部でこれまで以上に行っています。

(7) 1人1台端末について

- ① 学校は1人1台端末を効果的に活用している。

肯定 50 (67) 前年比-17 否定 50 (33)

校長より この項目は大きく減少しました。今後は、ICT 機器の使い方に対する児童生徒の期待に応えられるよう努めていきます。

3 保護者

(1) 学校に対する意識に関するもの

- ① 幼児児童生徒は、学校へ行くのを楽しみにしている。

肯定 88 (91) 前年比-3 否定 12 (9)

- ② 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。

肯定 100 (90) 前年比 10 否定 0 (10)

- ③ 学校は、特色のある教育活動に取り組んでいる。

肯定 93 (81) 前年比 12 否定 7 (19)

- ④ 学校は、幼児児童生徒の実態に応じた教育活動に取り組んでいる。

肯定 100 (84) 前年比 16 否定 0 (16)

- ⑤ 学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。

肯定 64 (78) 前年比-14 否定 36 (22)

保護者より 教職員はよくやってくれていますが、管理職が現場の理解ができていないように感じます。

校長より 管理職に対する厳しいご批判は真摯に受け止め改善を図ります。保護者からは、学校の教育活動に対する理解には高い数値を示していますが、「校長のリーダーシップが発揮されている」の項目が低いのは校長として反省しなければなりません。今後は、さらに学校全体を見渡し、情報発信にもできるだけ取り組んでいきたいと思えます。

(2) 学習指導に関するもの

- ① 幼児児童生徒は、授業がわかりやすく楽しいといっている。

肯定 85 (87) 前年比-2 否定 15 (13)

- ② 教職員は、幼児児童生徒の学習状況や努力を適切に評価している。

肯定 100 (91) 前年比 9 否定 0 (9)

大阪府立大阪北視覚支援学校

- ③ 教職員は、個別の教育支援計画を保護者とともに作成している。
肯定 100 (94) 前年比 6 否定 0 (6)
- ④ 教職員は、個別の指導計画を示して説明している。
肯定 100 (94) 前年比 6 否定 0 (6)
- ⑤ 学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。
肯定 44 (55) 前年比-11 否定 56 (45)

保護者より 専門性のある教員が異動にならないようにしてください。

学校の校舎や寄宿舍が古くて危険です。

校長より 職場の活性化のためにはある程度の異動は必要ですが、教職員の専門性の向上に努めていきます。本校では、幼児児童生徒の学習状況に応じた指導を行っており、評価、個別の教育支援計画、個別の指導計画を懇談の場などで説明を行っています。学校の施設設備の老朽化については、府立支援学校 PTA の対府懇談の場でも要求しましたが、予算の面もあってすぐにはいかないところがあります。まずは可能なところから安全を第一に環境整備を進めていくよう府に働きかけていきます。

(3) 生徒指導、幼児児童生徒理解に関するもの

- ① 教職員は、幼児児童生徒の障がいについてよく理解している。
肯定 100 (90) 前年比 10 否定 0 (10)
- ② 教職員は、いじめのない学習集団づくりに取り組んでいる。
肯定 100 (93) 前年比 7 否定 0 (7)
- ③ 教職員は、すべての教育活動において、幼児児童生徒の人権を十分に尊重して指導にあたっている。
肯定 93 (90) 前年比 3 否定 7 (10)

保護者より 下校時にピロティで担当児をしっかりと見ていないで衝突しそうところを見かけます。視覚支援学校の教員としての意識を徹底してください。

校長より 教職員の人権意識を高めるための取組みは人権研修のほか月1回の15分研修で行っています。生徒の見え方や障がい状況を十分理解し、いじめのない学校づくりを進めていきます。

(4) 進路指導に関するもの

- ① 学校は、将来の進路についての希望を懇談等で聞き取り、適切な指導を行っている。
肯定 87 (90) 前年比-3 否定 13 (10)
- ② 学校は、幼児児童生徒の自立に向けて、自主性や社会性をはぐくむ教育活動を行っている。
肯定 94 (91) 前年比 3 否定 6 (9)

校長より 本校では中学部から職場体験実習を行い、一人ひとりに適した進路選択に向けた指導を行っています。

(5) 道徳教育・人権教育に関するもの

- ① 学校は、発達段階や実態に応じて、幼児児童生徒に対して、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。
肯定 94 (97) 前年比-3 否定 6 (3)
- ② 学校は、発達段階や実態に応じて、幼児児童生徒に対して、人権を尊重する意識を育てようとしている。
肯定 100 (97) 前年比 3 否定 0 (3)
- ③ 学校は、ほかの学校の幼児児童生徒たちと交流する機会を設けている。
肯定 100 (90) 前年比 10 否定 0 (10)
- ④ 学校は、いじめについて幼児児童生徒が困っていることがあれば真剣に対応している。
肯定 100 (91) 前年比 9 否定 0 (9)

校長より 子どもたちの人権がしっかり守られる学校づくりを今後も進めてまいります。

(6) 情報提供に関するもの

- ① 学校は、教育情報について提供の努力をしている。
肯定 73 (93) 前年比-20 否定 27 (7)
- ② 学校は、保護者の相談に対応できる体制を整えている。
肯定 87 (91) 前年比-4 否定 13 (9)
- ③ 学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。
肯定 87 (97) 前年比-10 否定 13 (3)
- ④ 学校は、幼児児童生徒に関する個人情報を守っている。
肯定 100 (97) 前年比 3 否定 0 (3)
- ⑤ 学校は、ホームページやマチコミメールを見やすいように工夫している。
肯定 80 (88) 前年比-8 否定 20 (12)

校長より 情報提供に関しては、昨年度に比べて5項目のうち4項目が減少し、しかもその減少幅が大きくなっています。情報発信をもっと増やしていく必要があります。

(7) 学校教育の参画に関するもの

- ① 学校は、授業参観や学校行事に、保護者が参加しやすいように計画している。
肯定 100 (97) 前年比 3 否定 0 (3)
- ② 安全に関する指導をしており、防犯教育・防災教育が行われている。
肯定 93 (97) 前年比-3 否定 7 (3)
- ③ 学校ではPTA活動が活発に行われている。
肯定 93 (93) 前年比 0 否定 7 (7)

校長より 学校行事やPTA活動に保護者の皆様の多大なご協力をいただいております。1月末に総合防災訓練を実施し、保護者への引き渡しや一時避難場所として地域住民の受け入れなどを行いました。

(8) 1人1台端末について

① 学校は1人1台端末を効果的に活用している。

肯定 78 (80) 前年比-2 否定 22 (20)

校長より 校内で効果的な活用を検討してまいります。

4 教職員

(1) 教育活動について

① 学校の教育活動や指導の内容や方法について、幼児児童生徒の実態に合うように教職員で日常的に話し合っている。

肯定 94 (88) 前年比6 否定 6 (12)

② 教育課程には、学習指導要領等の趣旨が生かされており、主体的・対話的で深い学びを教育活動に取り入れている。

肯定 92 (87) 前年比5 否定 8 (13)

③ 年間指導計画の作成にあたっては、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。

肯定 89 (80) 前年比9 否定 11 (20)

④ 個別の教育支援計画・個別の指導計画は、本人・保護者のニーズを踏まえて作成し、計画・実施・評価・反省を適切に行うとともに、保護者への説明責任を果たしている。

肯定 87 (85) 前年比2 否定 13 (15)

⑤ 指導にあたっては、幼児児童生徒が興味をもって主体的に取り組めるように工夫している。

肯定 93 (92) 前年比1 否定 7 (8)

⑥ 学校行事が、幼児児童生徒にとって魅力あるものとなるように、工夫・改善を行っている。

肯定 88 (89) 前年比-1 否定 12 (11)

⑦ 生活指導において、家庭や関係諸機関と連携ができている。

肯定 94 (90) 前年比4 否定 6 (10)

⑧ 幼児児童生徒が、学級担任以外の教職員とも相談することができる、教育相談体制が整えられている。

肯定 80 (80) 前年比0 否定 20 (20)

⑨ いじめや問題事象が起こったとき、迅速に対応することができる。

肯定 86 (90) 前年比-4 否定 14 (10)

大阪府立大阪北視覚支援学校

- ⑩ 学校の諸活動において、安全指導が徹底しており、あらゆる場を通して防犯教育・防災教育が行われている。
肯定 84 (71) 前年比 13 否定 16 (29)
- ⑪ 小・中・高等学校との校種間連携・交流の機会を設け、教育活動全般に生かしている。
肯定 71 (57) 前年比 14 否定 29 (43)
- ⑫ 幼児児童生徒一人ひとりが、興味・関心、適性に応じて進路選択ができるように、きめ細かい指導を行っている。
肯定 88 (88) 前年比 0 否定 12 (12)
- ⑬ 幼児児童生徒が将来の進路や生き方について、考える機会を多く設けている。
肯定 75 (80) 前年比-5 否定 25 (20)
- ⑭ 幼児児童生徒が将来の進路や生き方について、考える機会を多く設けている。
肯定 92 (82) 前年比 10 否定 8 (18)
- ⑮ 体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、すべての教育活動において、人権尊重の姿勢に基づいた指導が行われている。
肯定 82 (86) 前年比-4 否定 18 (14)
- ⑯ 学校は、授業等において、1人1台端末を効果的に活用している。
肯定 69 (52) 前年比 17 否定 31 (48)

校長より 教育活動に関するものでは、全16項目中13項目が肯定80%以上でした。70%を下回ったのは「学校は、授業等において、1人1台端末を効果的に活用している。」1項目でしたが、これも昨年に比べると17ポイント上昇しています。教育活動においては児童生徒、保護者の評価も高いことから教職員が教育活動に熱心に取り組んでいることを強く言えるのではないかと考えています。

(2) 学校運営について

- ① 校長は、「学校経営計画」で自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにして、学校運営にリーダーシップを発揮している。
肯定 68 (73) 前年比-5 否定 32 (27)
- ② 学校運営に、教職員の意見や会議の内容が生かされている。
肯定 66 (64) 前年比 2 否定 34 (36)
- ③ 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。
肯定 54 (44) 前年比 10 否定 46 (56)
- ④ 各分掌や各部・学年間の連携が円滑に行われ、教職員が連携して業務に取り組める体制ができている。
肯定 70 (56) 前年比 14 否定 30 (44)
- ⑤ 教職員間の相互理解と、信頼関係に基づいて教育活動が行われ、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができている。
肯定 71 (72) 前年比-1 否定 29 (28)

大阪府立大阪北視覚支援学校

- ⑥ 校長は、業務改善と働き方改革を推進している。
肯定 57 (68) 前年比-11 否定 43 (32)
- ⑦ 校舎内は清掃が行き届いている。また、施設・設備は日常的に点検や管理が行われ、整備や修繕が長期的な見通しに立って実施されている。
肯定 38 (55) 前年比-17 否定 62 (45)
- ⑧ 各教科の備品や教材教具、コンピュータ等のICT機器が適切に配置され、活用されている。
肯定 74 (67) 前年比 7 否定 26 (33)
- ⑨ 専門性に関することなど、計画的に教職員研修が実施され、教育実践に役立つ内容になっている。
肯定 84 (82) 前年比 2 否定 16 (18)
- ⑩ 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。
肯定 70 (61) 前年比 9 否定 30 (39)
- ⑪ 幼児児童生徒の個人情報適切に管理されている。
肯定 91 (94) 前年比-3 否定 9 (6)
- ⑫ 教育活動に必要な情報について、配付プリントや学校ホームページを活用し、幼児児童生徒、保護者や地域への周知・情報発信に努めている。
肯定 95 (87) 前年比 8 否定 5 (13)
- ⑬ 緊急事態に対して迅速かつ適切な対処ができるように、役割分担が明確化されている。
肯定 86 (80) 前年比 6 否定 14 (20)

校長より 学校運営に関するものでは、全13項目中肯定80%以上は4項目で、肯定70%未満が5項目ありました。学校運営の方針が教職員に伝わっていないところはコミュニケーション不足であることは否めません。また、業務の偏りが依然として残り、適正な業務分担がなされていない中で定時退庁や働き方改革を訴えてきたため教職員の不満やストレスがたまったものと考えています。今後、次年度に向けて対策を考えていきます。